5　診療所の消化器専門医

● よい条件の医者は自分でさがす

N 病院での内視鏡検査の後，家族で会議を開いて，多分最悪の事態かもしれないが，このカタツムリのような N 病院は敬遠することにした。妻が internet で大腸を keyword に検索した結果，多くの個人診療所や小さな病院で大腸の内視鏡検査を実施していることが解った。そこでの体験記を読むと,「N 病院ほど待たされず，検査の時間もかからないし，痛くもない。」ということが判明した。

連休明けにすぐ，internet で探した東大赤門前にある H クリニックへ出かけて行き，予診を受けて 2 日後に緊急検査の予約が取れた。N 病院のように 3 週間待ちということはなかった。検査のときは私も一緒に検査画像を見せてもらった。大病院では到底できない相談である。素人の目にも鮮明な 5cm 大の腫瘍が上行結腸の内側を覆っていた。H クリニックの S 院長はすでに検査の経験数が万の大台を越えるという割には若手の医師で，検査に伴う痛みもなく，20 分ほどで検査を終了した。この部位は潜血反応が出にくいことがあるとの話であった。

その場で癌の告知を受け，癌専門の G 病院への紹介状を書いてもらった。紹介状は病院宛てではなく，紹介先の G 病院の大腸外科の A 先生宛てであった。N 病院へは行かないことにして，検査の結果だけを借り受けることにした。前の章に書いた N 病院での告知は，この H クリニックでの告知の後であった。

● 「ついでに。」はよい機会と思うべし

H クリニックでは私も検査をすることを勧められ，一も二もなく予約をした。私は 10 mm 大の過形成 polyp と腺腫が合計三つ見つかり，その場で内視鏡下での除去手術を受けた。一年後の検査でも 5 mm 大の polyp が成長していて，再度除去した。次回は 3 年後でよいそうである。

さらに，今年上の子供が下血したというので，羹に懲りたので検査を受けたら，13 mm 大まで育った過形成 polyp が三つと腺腫が一つ見つかった。若くても polyp はできていることが判明した。S 医師の話では,「遺伝的な要素も無視できないかもしれないので，奥さんも若いときから大腸 polyp を持っていたかもしれない。さらに，下のお子さんも数年以内に内視鏡検査を受けたほうがよい。」とのことであった。

ひょんなことで病気が見つかるというのは，よくあることである。人が何かよさそうなことを勧めたら，まず自分で吟味してから積極的に乗ってみるのがよいと思う。

● 医師の技量は病院の大きさでは決まらない

大病院にも専門医がいるはずであるが，診療所の専門医のほうが早く正確で上手いということなら，患者はそちらに行って受診したほうがよい。大病院が実施している人間ドックで，追加料金を払うと大腸や胃の内視鏡検査をしてくれるところはある。しかし，検査する医師の腕が保証されているわけではないので，専門医の検査を受けることをお勧めする。

● 後悔は先に立たない

S 医師の告知を受け，家族は夜を徹して泣いた。それから，避けられない死への準備をどうするか話し合った。愛する家族を突然失う可能性を宣告された驚きと悲しみは，その経験がない人にはとうてい理解できないであろう。事故や流行病ではなく，本来避けられた死を迎えなくてはならない焦燥感を押さえつつ，仕事や学業に向かうことはたいへんであった。

私の後悔は,

(1) どうして数年前の体部の CT で満足して，毎年連続して検査を受けなかったか

(2) 何で兆候が出たときに検査しなかったか
(3) 精密検査をするときに何故にすぐに専門医を探さなかったのか
ということである。

この項終了

©2003 Dr.YIKAI